

# 安全データシート

## 1. 化学物質および会社情報

化学品の名称：フビ・ボンド 浴室水廻り用

供給者の会社名称、住所、および電話番号：

社名：フビ 化学工業株式会社

住所：福井県福井市三十八社町 33-66 〒918-8585

担当：品質保証本部 マネジメントシステム部

TEL：0776-38-8031 FAX：0776-38-8404

作成：2014年2月13日 改定：2024年2月2日

## 2. 危険有害性の要約

化学品の GHS 分類：

物理化学的危険性：

いずれの項目も区分に該当しない。

健康に対する有害性：

皮膚腐食性または皮膚刺激性：区分 2

眼に対する重篤な損傷性または眼刺激性：区分 2A

呼吸器感作性：区分 1

皮膚感作性：区分 1

その他の項目は区分に該当しない、または分類できない。

環境に対する有害性：

水生環境有害性 短期（急性）：区分 3

水生環境有害性 長期（慢性）：区分 3

オゾン層への有害性：分類できない。

GHS ラベル要素：

絵表示またはシンボル：



注意喚起語：危険

危険有害性情報：

(H315) 皮膚刺激

(H319) 強い眼刺激

(H334) 吸入するとアレルギー、ぜんそく、または呼吸困難を起こすおそれ

(H317) アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ

(H402) 水生生物に有害

(H412) 長期継続的影響により水生生物に有害

注意書き：

安全対策：

(P261) 粉じん、煙、ガス、ミスト、蒸気、スプレーの吸入を避ける。

(P264) 取り扱い後は手をよく洗う。

- (P272) 汚染された作業衣は作業場から出さない。
- (P273) 環境への放出を避ける。
- (P280) 保護手袋、保護衣、保護眼鏡、保護面を着用する。

救急措置：

- (P302+P352) 皮膚に付着した場合、多量の水と石けんで洗う。
- (P305+P351+P338) 眼に入った場合、水で数分間注意深く洗う。コンタクトレンズ<sup>\*</sup>を着用している場合は外せる場合は外す。その後も洗浄を続ける。
- (P321) 特別処置が必要。『4.応急処置』を参照。
- (P333+P313) 皮膚刺激または発疹が生じた場合、医師の診察、手当を受ける。
- (P337+P313) 眼の刺激が続く場合は、医師の診察、手当を受ける。
- (P342+P311) 呼吸に関する症状が出た場合、医師に連絡する。
- (P362+P364) 汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をする。

廃棄：

- (P501) 内容物、容器を廃棄するときは、法令、条例に従う。許可を受けた専門の業者に委託する。

### 3. 組成および成分情報

化学物質または混合物の区別：混合物

化学名または一般名：変成シリコン・エポキシ樹脂接着剤

成分：

- 変成シリコン・エポキシ樹脂 30-40 %
- (ヒ<sup>\*</sup>スフェノール A 型エポキシ樹脂 1-5 %
- 無機質充てん剤 50-70 %
- シ<sup>\*</sup>アルキルス<sup>\*</sup>化合物 0.1-0.5 %

CAS No.：

25068-38-6 ヒ<sup>\*</sup>スフェノール A 型エポキシ樹脂

### 4. 応急措置

眼に入った場合：

清浄な水で15分以上洗う。医師の診察、手当を受ける。

皮膚に付着した場合：

付着物をふき取り、水と石けんで良く洗う。

かゆみや炎症が生じた場合、医師の診察、手当を受ける。

吸入した場合：

空気の新鮮な場所に移し、安静、保温に努める。医師の診察、手当を受ける。

飲み込んだ場合：

無理に吐き出させない。直ちに医師に連絡する。

### 5. 火災時の措置

適切な消火剤：二酸化炭素、粉末、散水、泡、乾燥砂

使ってはならない消火剤：特になし。

特有の消火方法：

火元への燃焼源を断ち、消火剤を使用して風上から消火する。消火には水スプレーにてタンク等の冷却を行う。  
消火活動を行う者の特別な保護具および予防措置：

保護衣を着用するほか、状況によっては、不浸透性手袋、有機ガス用防毒マスク等の保護具を着用する。

## 6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置：

保護眼鏡、保護手袋、防毒マスク等を着用して作業する。

環境に対する注意事項：

漏出した場所の周辺にはロープを張り、人の立ち入りを禁止する。

付近の着火源を取り除き、消火器材を準備する。多量の場合には、流路を盛土などで囲って流出を防止する。

封じ込め、浄化の方法および機材：

少量の場合は紙、布、砂などに吸収させ、フタ付きの器等に回収する。

多量の場合は火花の出ないシャベル等で空容器等にすくい取る。

漏洩物中には滑り事故を引き起こすものがあるため、適切な方法で除去する。

自然発熱が起こる可能性があるため、除去作業に使用したケス、砂などは適切な方法で廃棄する。

流出、その他の事故が発生したときは、警察署、消防署等の関係機関に連絡する。

## 7. 取り扱いおよび保管上の注意

取り扱い：

皮膚に触れないよう保護手袋、保護眼鏡等の保護具を着用する。

取り扱い後は手洗いを十分に行う。

硬化時にアルコールが発生する。引火性があるため火気厳禁で取り扱う。

保管：

容器は破損、腐食、割れ等のないものを使用する。

直射日光を避け、容器を密閉し、冷暗所に保管する。

## 8. ばく露防止および保護措置

暴露濃度基準：設定されていない。

設備対策：

蒸気、ミストが発生する場合、局所排気装置などの排気のための装置を設置する。

保護具：

呼吸用保護具：有機ガス用防毒マスク

手の保護具：ポリエチレン、ゴム製等の非浸透性の保護手袋

眼の保護具：保護眼鏡

皮膚および身体の保護具：長袖作業衣

## 9. 物理的および化学的性質

物理状態：ペーパ状。

色：白色。

臭い：素材臭あり。

融点 / 凝固点：明確な融点、凝固点はない。

沸点または初留点および沸騰範囲：データなし。

可燃性：可燃。

爆発下限界および爆発上限界 / 可燃限界：データなし。

引火点：データなし。

自然発火点：データなし。

分解温度：データなし。

pH：該当しない。

動粘性率：データなし。

溶解度：水に不溶、一部の有機溶剤に可溶。

n-オクタノール / 水分配係数：データなし。

蒸気圧：該当しない。

密度 / 相対密度：1.5 g/cm<sup>3</sup> (23°C)

相対ガス密度：該当しない。

粒子特性：該当しない。

## 10. 安定性および反応性

反応性：通常の取り扱い条件では反応性はない。

化学的安定性：密閉状態では安定だが、解放状態では反応が進む。

危険有害反応可能性：通常の取り扱い条件では危険有害反応を起こさない。

避けるべき条件：高温、火気、スパーク。

混触危険物質：酸、アルカリ、酸化剤。

危険有害な分解生成物：情報なし。

## 11. 有害性情報

急性毒性（経口）：混合物の急性毒性推定値は 2,000 mg/kg 以上。

急性毒性（経皮）：混合物の急性毒性データが不十分のため、分類できない。

急性毒性（気体）：常温で固体のため分類対象外。

急性毒性（蒸気）：混合物の急性毒性推定値は 20 mg/L 以上。

急性毒性（吸入：粉じんおよびミスト）：混合物の急性毒性データが不十分のため、分類できない。

皮膚腐食性または皮膚刺激性：皮膚腐食性区分 1 の該当成分が 1% 以上 5% 未満濃度のため、区分 2 相当。

眼に対する重篤な損傷性または眼刺激性：皮膚腐食性または眼に対する重篤な損傷性区分 2A の該当成分が 1% 以上 3% 未満濃度のため、区分 2A 相当。

呼吸器感作性：呼吸器感作性区分 1 の該当成分が 0.1% 以上濃度のため、区分 1 に相当。

皮膚感作性：皮膚感作性区分 1 の該当成分が 0.1% 以上濃度のため、区分 1 に相当。

生殖細胞変異原性：生殖細胞変異原性区分 2 以上の該当成分が 0.1% 未満濃度。

発がん性：発がん性区分 2 以上の該当成分が 0.1% 未満濃度。

生殖毒性：生殖毒性区分 2 以上の該当成分が 0.3% 未満濃度。

特定標的臓器毒性（単回ばく露）：データが不十分のため分類できない。

特定標的臓器毒性（反復ばく露）：データが不十分のため分類できない。

誤えん有害性：データが不十分のため分類できない。

## 12. 環境影響情報

水生環境有害性 短期（急性）：区分 3 の該当成分が 25%以上濃度あるため、区分 3 に相当。

水生環境有害性 長期（慢性）：区分 3 の該当成分が 25%以上濃度あるため、区分 3 に相当。

生態毒性：データなし。

残留性 / 分解性：データなし。

生体蓄積性：データなし。

土壌中の移動性：データなし。

水層への有害性：モニタリング議定書の附属書に記載される物質成分はない。

## 13. 廃棄上の注意

残余廃棄物：

廃棄物処理法、地方条例等に基づき、焼却するか、許可を受けた処理業者に処理委託する。

内容物が付着したウエス等も同様。

汚染容器・包装：

内容物を完全に除いた後、処分する。処理は法規の規定に従って行う。

## 14. 輸送上の注意

国際規制（国連番号 / 国連分類 / 容器等級）：該当しない。

輸送または輸送手段に関する特別の安全対策：

「取扱いおよび保管上の注意」の項に記載によるほか、引火性の強い有害な液体に関する一般的な注意による。

その他、消防法、船舶安全法等の法令に定めるところに従う。容器に漏れのない事確かめ、転倒、落下、破損がないように積み込み、荷崩れの防止を確実にを行う。

## 15. 適用法令

消防法：指定可燃物 - 可燃性固体

労働安全衛生法：表示、通知すべき危険有害物：すずおよびその化合物

毒物劇物取締法：非該当。

化学物質管理促進法：非該当。

## 16. その他の情報

ホルムアルデヒド 放散量区分：日本接着剤工業会 F☆☆☆☆ JAIA - 011187

4VOC 放散量区分：日本接着剤工業会 4VOC 基準適合 JAIA - 505024

引用文献：

独立行政法人 製品評価技術基盤機構 化学物質総合情報提供システム

化学工業日報社 15307 の化学商品

本書は現時点で入手できる資料、情報、データに基づいて作成していますが、法令の改正や新しい知見により改定することがあります。本品の使用にあたっては、使用者の責任において適切な安全対策を実施したうえで、使用してください。本書は情報を提示するもので、安全や品質を保証するものではありません。